～浪速区独自の医療・介護連携の取り組み～

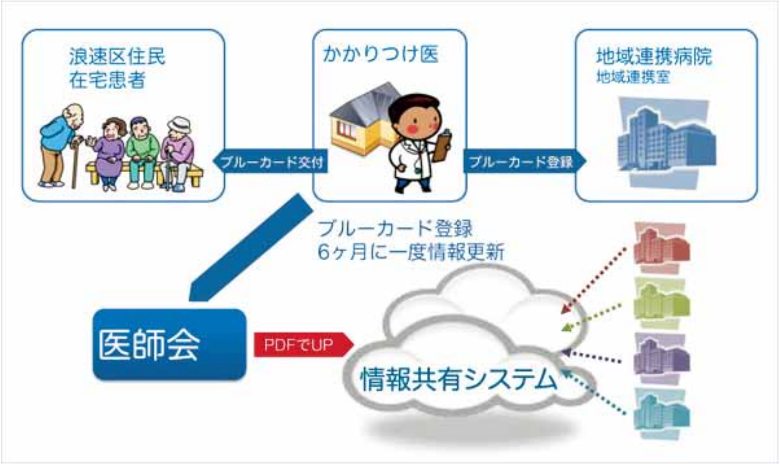
Ａケアカードシステム・ブルーカードシステムがあなたをサポート

浪速区ではいざという時に緊急受診できる病院をあらかじめ決めておくことができるブルーカードシステムや、あなたにかかわる医療・介護・保健の担当者がすばやく情報を共有して質の高いケアを目指すＡケアカードシステムがあります。病院の治療が必要になった時は？ やっぱりおうちに帰りたくなった時は？・・・そんな不安をあなたが話しやすい顔なじみに相談すれば、関係者全員があなたにとって一番良い方法を考えることができます。

Ａケアカードシステムってなに？

医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー・ヘルパーなど健康や生活を支えている関係者の間で、身体の状態やお薬・血液検査などの医療情報、食事・家事・買い物など日常生活状況などの介護情報、そしてあなたの希望する人生のあり方や価値観などの情報を多職種で共有して、質の高い、よりよいケアを目指すシステムがＡケアカードシステムです。

ブルーカードシステムってなに？



ブルーカードシステムは、診療所にかかっている患者様が夜間や休日などの診療所が対応できない時間帯に急変した際、あらかじめ指定した連携病院にスムーズに受診できるようサポートする仕組みです。

登録することにより救急搬送時間の短縮、疾患情報の共有により搬送後のじん速で適切な対応が可能となります。

Ａケアカード・ブルーカードが欲しいなぁと思ったら

Ａケアカードはシステムに参加している医療機関、介護事業所で発行できます。ブルーカードはシステムに参加している医療機関で発行できます。参加機関は以下のホームページで見ることができますが、コンピューターが苦手な人は、かかりつけ医やケアマネジャー等にご相談ください。

参加機関一覧：https://naniwaku.a-care-card.jp/members.html

参加機関一覧▶

『浪速区版ACP(人生会議)
もしものときのメッセージ』

～コロナ禍、いつ何が起こるかわからない
私がわたしらしく生きるために　今、考えてみよう～

この度の新型コロナウイルスをはじめとする感染症や他の病気、事故などで、年齢を問わず急に重症化することがあります。緊急入院となり救命のため、自分の意に反してあらゆる治療が行われる可能性があります。コロナ禍では入院すると、面会できないので誰にも相談できません。今、考えられる時に、ご家族や周りの方に自分の生き方を伝えておくことが大切ではないでしょうか。

自分が望んでいることをご家族・医療・介護スタッフと話し合いましょう。

浪速区では多職種（医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー・介護ヘルパーなど）が、区民の皆さまが安心して毎日の生活を続け希望を叶えられるようお手伝いします。

少しでも区民の皆さまのお役にたてれば幸いです。

浪速区在宅医療介護連携推進会議

これからの治療・ケアに関する話し合い
ACP：アドバンス・ケア・プランニング
〈人生会議〉

年齢や健康状態に問わず、ご家族やご友人などに話し合ってみましょう。日ごろから考え、話し合うことで、もしものときに希望が尊重された決定につながります。

B

症状緩和や延命処置について考えましょう

① 痛み止め　(痛みが強い時)

飲み薬、貼り薬、座薬、注射薬などでおさえます

② 酸素吸入（呼吸が苦しい時）

息がしにくい時に鼻や口から酸素を吸います

③ たんを吸い出す（たんが出しにくい時）

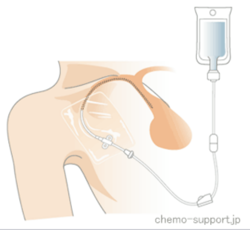
口の中や気管のたんをチューブで吸い出します

④ 点滴（水分）（食べられなくなった時）

手足の血管から主に水分を補給します

⑤ 点滴（栄養）（食べられなくなった時）

心臓の近くの血管にチューブを入れて栄養を補給します



⑥ 鼻の管から栄養（食べられなくなった時）

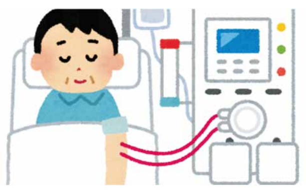
鼻から胃まで管を入れて栄養を補給します

⑦ 胃ろうから栄養（食べられなくなった時）

胃に穴を開けて直接管を通して栄養を補給します

⑧ 人工透析（腎臓が悪くなった時）

体の老廃物や水分を血管に針を刺して機械で除去します



⑨ 心臓マッサージ(呼吸・心臓が止まった時)

呼吸や心臓が止まった時に胸を強く押して心臓をマッサージします

⑩ 電気的除細動（AED）

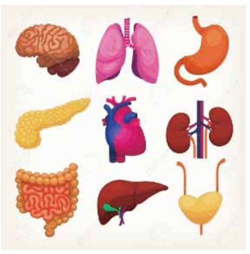
心臓が止まった時に心臓に電気を流します

⑪ 人工呼吸器（呼吸ができなくなった時）

鼻や口から気管にチューブを入れ肺に酸素を送ります

⑫ 臓器提供（亡くなった時）

亡くなった後、心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・角膜等の臓器を待つ人に提供できます



希望するケアについて話し合いましょう

希望や思いを理解してもらうためご家族やご友人、医療・介護のスタッフと話し合いましょう。自分の考えや気持ちが伝えられなくなったときに、難しい判断をする重要な助けとなります。

『　在宅で利用できるサービス　』

食事ケア

排泄ケア

入浴ケア

訪問医師

訪問歯科・口腔ケア

訪問薬剤師

訪問看護師

訪問リハビリ

福祉用具レンタル

メッセージシートを記入しましょう

＊メッセージシートは、記載することが目的ではなく、ご家族や親しい方々と自分の最期の時について十分話し合うことが大切です。かかりつけ医やケアマネジャーにも相談しましょう。

＊メッセージシートはその時に書けることだけを書き、全部が埋まらなくてもかまいません。また、あなたの考えや気持ちについて、ご家族をはじめとする親しい人々に伝えることができるよう、話し合いながら書いてください。

＊人の気持ちは揺れ動き、また周囲の状況や病状によって変化します。気持ちが変わった時は、メッセージシートを書き直してください。メッセージシートは何度書き直してもかまいません。ただし、記入した日付は忘れずに書いてください。定期的に見直すことも大切です。

＊署名したメッセージシートの保管場所は、必ずまわりの方と共有してください。